

新産業都市における住民の意識調査に関する研究

東北大学 正員 須田 熊
運輸省 正員 新井洋一
福島高専 正員 高橋邦雄
東北大学 正員 湯沢 昭

1 はじめに

大都市における人口及び産業の集中を防止し、地域格差の是正と雇用の安定を図るため、昭和37年に「新産業都市建設促進法」が制定され、全国に75の新産業都市指定が行われた。その結果、工業の集積、人口流出の歯止めなどにかかなりの効果を上げてきたものの、昭和48年のオイルショックを契機として厳しい経済情勢を反映し企業立地が停滯、一部では、公害や自然破壊などの社会問題をも引き起した。また、社会情勢も大きく変ぼうし、高度経済成長から安定成長へと転換した。加えて「三全総」により「定住圏構想」が打ち出されるなどして、地域開発に対する住民の価値観も変化してきていると思われる。この時に当り、新産業都市における住民の意識を明確にとらえることは、新産業都市のみならず、今後の地域開発の参考になるものと考えられる。

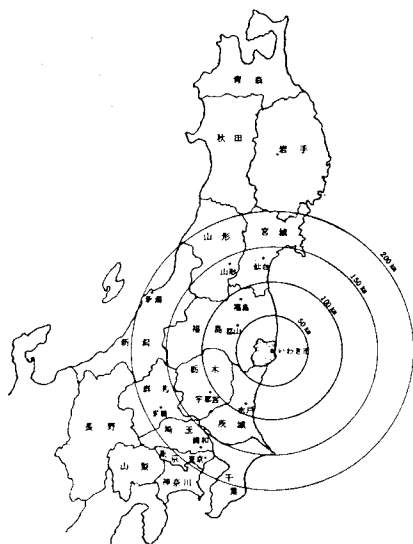
2 調査の概要

調査対象地域の「福島県いわき市」(図2・1参照)は、昭和37年に新産業都市の指定を受け、昭和47年に74市町村の合併(図2・2参照)を経て今日に至っている。

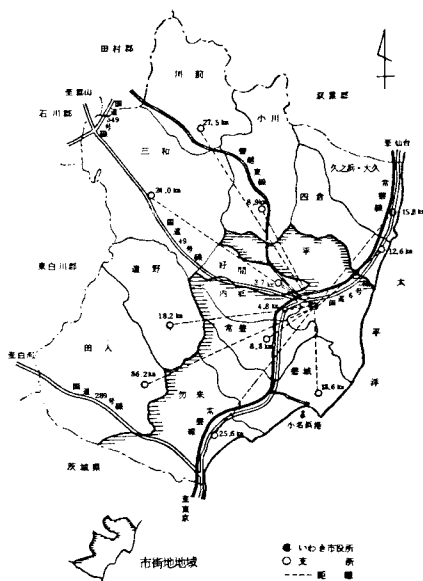
本報告は始めに行政・学識経験者等の専門的立場にある方々/2名に対し、現在のいわき市のかかえている問題、将来の展望等に関する意識構造調査をDEMATEL法により行った。次にその結果を参考として、一般住民に対しアンケート方式により、環境教育・産業等の意識調査を行った。調査対象はいわき市内に在住の20才以上の男女2000人を無作為に抽出し、「留置方式」により調査を行った。調査票の回収率は77.5%(解析率は73.4%)である。アンケート調査結果の解析方法として、生活環境全般については数量化理論第Ⅱ類による解析を郊外地域、市街地地域、全地域に分けて行い、福祉・生活・産業等の項目は、時系列変化(同種のアンケート調査を昭和50年に行った)について解析し、最後に重要港湾である小名浜港に関する項目については単純集計による分析を行った。

3 人口ポテンシャル

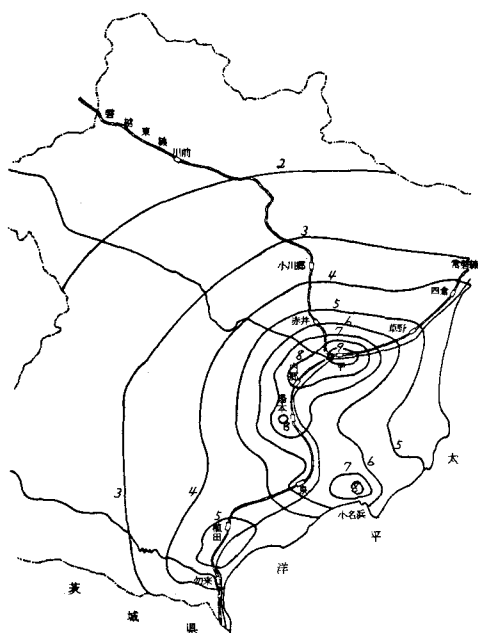
いわき市の人口推移は、昭和33年をピーク(354744人)とし以後減少状態に入り、その後昭和46年(324739人)を底としてようやく増加傾向に転じ現在(昭和54年339135人)に至っている。しかし人口の大部分は市街地地域に集中(全人口の80.3%)し、郊外地域との人口較差は増加する一方である。



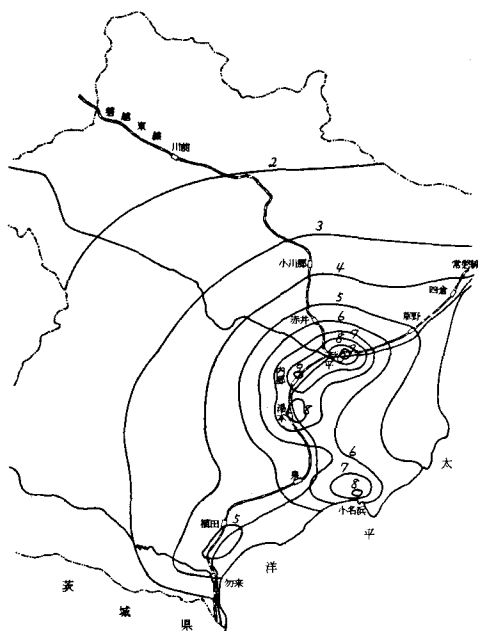
(図2・1) いわき市の位置



(図2・2) いわき市の構成



(図3・1) 人口ポテンシャル(昭和50年)



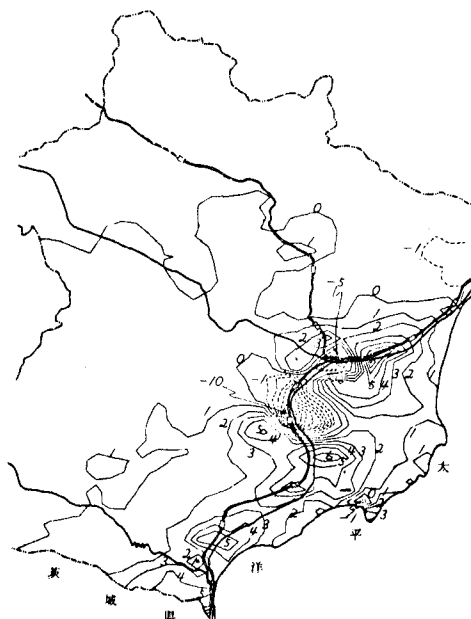
(図3・2) 人口ポテンシャル(昭和45年)

(図3・1)は昭和50年の国調の人口データ(330,213人)より作成した人口ポテンシャルを表わし、(図3・2)は昭和45年(327,64人)の人口ポテンシャルを表わしている。図からも市街地地域のポテンシャルが郊外地域に較べいかに高いかが判る。なお図中の数値は昭和45年のポテンシャルの最大値を10とした時の等高線の値を示している。(図3・3)は昭和50年と昭和45年の人口変化のポテンシャルを表わしており実線はポテンシャルの増加を、破線は減少を示している。常磐線沿線の増加、減少が著しく、郊外地域の変化はあまり見られない。また(図3・1)より勿来地区の人口は比較的多いにもかかわらず、他の地区と離れているため人口ポテンシャルがかなり低い値を示しているのは注目される。

4 DEMATEL法による解析結果

DEMATEL(Decision Making Trial and Evaluation Laboratory)法は、社会現象に対する個々の人間の意識や判断を統計的に調査し

これを評価する社会調査法である。本調査は、いわき市の行政担当者と学識経験者の合計12名に対し、(表4・1)に示す設問による意識調査を行った。調査の内容は教育・福祉・産業の各項目に渡り、アンケートでは各要因の重要性、要因間の直接影響の有無とその影響度合いについて質問している。調査結果による各項目間の関係(平均構造)を(図4・1)に示す。矢印は各項目間の関係を示し、上へ行く程その重要性が増し、左右方向は何ら意味を持たない。本調査によれば、流通施設、商業振興策、高速道路・



(図3・3) 人口変化による人口ポテンシャル

要 因	変 数	人 数	人 口	順位	RANGE
1 自然環境の良さ	1	286	0.01233	1	0.01233
	2	275	0.01035	2	0.01035
	3	426	0.01078	0.11219	0.01078
	4	99	0.01427	5	0.01427
	5	75	0.00985	6	0.00985
2 自然環境・風景	1	312	0.00669	1	0.00669
	2	242	0.01158	2	0.01158
	3	469	0.01141	0.07771	0.01141
	4	95	0.00934	5	0.00934
	5	86	0.01427	6	0.01427
3 都市環境・生活の便さ	1	232	0.00669	1	0.00669
	2	175	0.01141	2	0.01141
	3	469	0.01141	0.20114	0.01141
	4	168	0.02767	5	0.02767
	5	86	0.01427	6	0.01427
4 自然環境・生活の便さ	1	312	0.00669	1	0.00669
	2	242	0.01158	2	0.01158
	3	469	0.01141	0.05423	0.01141
	4	95	0.00934	5	0.00934
	5	86	0.01427	6	0.01427
5 生活環境・生活の便さ	1	183	0.00334	1	0.00334
	2	130	0.00334	2	0.00334
	3	344	0.00886	0.03450	0.00886
	4	84	0.00886	5	0.00886
	5	31	0.01178	6	0.01178
6 生活環境・生活の便さ	1	479	0.00431	1	0.00431
	2	165	0.02096	2	0.02096
	3	336	0.00868	0.05052	0.00868
	4	84	0.00868	5	0.00868
	5	80	0.01405	6	0.01405
7 生活環境・生活の便さ	1	416	0.00322	1	0.00322
	2	335	0.00809	2	0.00809
	3	395	0.00784	0.06448	0.00784
	4	142	0.02325	5	0.02325
	5	76	0.00222	6	0.00222
8 生活環境・生活の便さ	1	261	0.00337	1	0.00337
	2	130	0.00809	2	0.00809
	3	393	0.00942	0.07065	0.00942
	4	152	0.02325	5	0.02325
	5	148	0.00222	6	0.00222
9 生活環境・生活の便さ	1	261	0.00337	1	0.00337
	2	130	0.00809	2	0.00809
	3	393	0.00942	0.07065	0.00942
	4	152	0.02325	5	0.02325
	5	148	0.00222	6	0.00222
10 生活環境・生活の便さ	1	119	0.01192	1	0.01192
	2	143	0.00733	2	0.00733
	3	409	0.00886	0.20779	0.00886
	4	264	0.00903	5	0.00903
	5	189	0.00886	6	0.00886
11 生活環境・生活の便さ	1	236	0.00428	1	0.00428
	2	205	0.00803	2	0.00803
	3	434	0.01428	0.06450	0.01428
	4	171	0.02256	5	0.02256
	5	118	0.01376	6	0.01376
12 生活環境・生活の便さ	1	93	0.01080	1	0.01080
	2	307	0.00823	2	0.00823
	3	307	0.00823	3	0.00823
	4	171	0.01254	4	0.01254
	5	171	0.01254	5	0.01254

(表5・2) 生活環境要因分析(市街地地域)

要 因	変 数	人 数	人 口	順位	RANGE
1 自然環境・生活の便さ	1	219	0.01233	1	0.01233
	2	137	0.01488	2	0.01488
	3	467	0.00917	0.15121	0.00917
	4	297	0.00917	5	0.00917
	5	114	0.01761	6	0.01761
2 生活環境・生活の便さ	1	467	0.00669	1	0.00669
	2	160	0.00823	2	0.00823
	3	467	0.00823	0.04254	0.00823
	4	281	0.00823	5	0.00823
	5	160	0.00823	6	0.00823
3 生活環境・生活の便さ	1	141	0.00722	1	0.00722
	2	147	0.00843	2	0.00843
	3	323	0.00587	0.08178	0.00587
	4	296	0.01353	5	0.01353
	5	241	0.00843	6	0.00843
4 生活環境・生活の便さ	1	103	0.01427	1	0.01427
	2	142	0.00529	2	0.00529
	3	409	0.01300	0.09513	0.01300
	4	238	0.01661	5	0.01661
	5	241	0.00843	6	0.00843
5 生活環境・生活の便さ	1	198	0.04335	1	0.04335
	2	160	0.00529	2	0.00529
	3	397	0.00337	0.07343	0.00337
	4	294	0.02644	5	0.02644
	5	125	0.02988	6	0.02988
6 生活環境・生活の便さ	1	44	0.02599	1	0.02599
	2	117	0.00337	2	0.00337
	3	433	0.00717	0.06359	0.00717
	4	304	0.00432	5	0.00432
	5	21	0.00267	6	0.00267
7 生活環境・生活の便さ	1	73	0.00809	1	0.00809
	2	117	0.00337	2	0.00337
	3	338	0.00732	0.06018	0.00732
	4	261	0.01831	5	0.01831
	5	173	0.00249	6	0.00249
8 生活環境・生活の便さ	1	70	0.03337	1	0.03337
	2	117	0.00337	2	0.00337
	3	705	0.00423	0.06293	0.00423
	4	127	0.00423	5	0.00423
	5	127	0.00750	6	0.00750
9 生活環境・生活の便さ	1	139	0.01338	1	0.01338
	2	123	0.00337	2	0.00337
	3	404	0.00423	0.10407	0.00423
	4	123	0.00225	5	0.00225
	5	92	0.00338	6	0.00338
10 生活環境・生活の便さ	1	130	0.00513	1	0.00513
	2	152	0.00483	2	0.00483
	3	686	0.00117	0.19287	0.00117
	4	103	0.00443	5	0.00443
	5	93	0.01274	6	0.01274
11 生活環境・生活の便さ	1	55	0.00823	1	0.00823
	2	82	0.00417	2	0.00417
	3	404	0.00117	0.17006	0.00117
	4	142	0.00264	5	0.00264
	5	81	0.00264	6	0.00264

相関係数 $r = 0.67366$

要 因	変 数	人 数	人 口	順位	RANGE
1 自然環境・生活の便さ	1	335	0.01233	1	0.01233
	2	137	0.01488	2	0.01488
	3	467	0.00917	0.10179	0.00917
	4	114	0.01761	5	0.01761
	5	297	0.00917	6	0.00917
2 生活環境・生活の便さ	1	467	0.00669	1	0.00669
	2	283	0.00823	2	0.00823
	3	318	0.00843	0.08679	0.00843
	4	112	0.00621	5	0.00621
	5	58	0.01564	6	0.01564
3 生活環境・生活の便さ	1	200	0.02541	1	0.02541
	2	204	0.00158	2	0.00158
	3	578	0.01658	0.19105	0.01658
	4	193	0.01442	5	0.01442
	5	93	0.01564	6	0.01564
4 生活環境・生活の便さ	1	400	0.01858	1	0.01858
	2	265	0.00318	2	0.00318
	3	411	0.00958	0.13904	0.00958
	4	123	0.00267	5	0.00267
	5	60	0.00843	6	0.00843
5 生活環境・生活の便さ	1	728	0.00669	1	0.00669
	2	184	0.00669	2	0.00669
	3	444	0.01852	0.04061	0.01852
	4	72	0.00200	5	0.00200
	5	40	0.00157	6	0.00157
6 生活環境・生活の便さ	1	578	0.00669	1	0.00669
	2	122	0.01658	2	0.01658
	3	522	0.00507	0.05380	0.00507
	4	109	0.01535	5	0.01535
	5	86	0.00185	6	0.00185
7 生活環境・生活の便さ	1	552	0.00388	1	0.00388
	2	160	0.00809	2	0.00809
	3	467	0.00388	0.08360	0.00388
	4	157	0.00128	5	0.00128
	5	139	0.00228	6	0.00228
8 生活環境・生活の便さ	1	340	0.01513	1	0.01513
	2	182	0.00191	2	0.00191
	3	467	0.01513	0.06442	0.01513
	4	268	0.00151	5	0.00151
	5	316	0.00522	6	0.00522
9 生活環境・生活の便さ	1	340	0.00470	1	0.00470
	2	246	0.00216	2	0.00216
	3	433	0.01413	0.09567	0.01413
	4	218	0.00470	5	0.00470
	5	213	0.00750	6	0.00750
10 生活環境・生活の便さ	1	143	0.00448	1	0.00448
	2	232	0.00183	2	0.00183
	3	521	0.00983	0.16674	0.00983
	4	239	0.00117	5	0.00117
	5	239	0.00726	6	0.00726
11 生活環境・生活の便さ	1	320	0.00417	1	0.00417
	2	239	0.00192	2	0.00192
	3	842	0.00453	0.07328	0.00453
	4	210	0.00203	5	0.00203
	5	187	0.00218	6	0.00218
12 生活環境・生活の便さ	1	113	0.00226	1	0.00226
	2	145	0.00231	2	0.00231
	3	832	0.00589	0.04229	0.00589
	4	244	0.01282	5	0.01282
	5	234	0.01702	6	0.01702

要 因	変 数	人 数	人 口	順位	RANGE
1 自然環境・生活の便さ	1	286	0.01233	1	0.01233
	2	161	0.01428	2	0.01428
	3	469	0.01035	0.12553	0.01035
	4	265	0.01434	5	0.01434
	5	75	0.00985	6	0.00985
2 生活環境・生活の便さ	1	312	0.00669	1	0.00669
	2	274	0.01417	2	0.01417
	3	469	0.01141	0.08155	0.01141
	4	346	0.01427	5	0.01427
	5	86	0.01427	6	0.01427
3 生活環境・生活の便さ	1	162	0.02587	1	0.02587
	2	167	0.02767	2	0.02767
	3	409	0.00303	0.11613	0.00303
	4	369	0.00510	5	0.00510
	5	361	0.01528	6	0.01528
4 生活環境・生活の便さ	1	122	0.01686	1	0.01686
	2	263	0.00832		
5 生活環境・生活の便さ	1	236	0.01874	1	0.01874
	2	161	0.01211	2	0.01211
	3	518	0.00754	0.08911	0.00754
	4	367	0.01313	5	0.01313
	5	160	0.02755	6	0.02755
6 生活環境・生活の便さ	1	545	0.01111	1	0.01111
	2	341	0.01045	2	0.01045
	3	371	0.00941	3	0.00941
	4	301	0.01045	4	0.01045
	5	238	0.02208	5	0.02208
7 生活環境・生活の便さ	1	75	0.01699	1	0.01699
	2	112	0.01121	2	0.01121
	3	304	0.01338	3	0.01338
	4	219	0.01017	4	0.01017
	5	158	0.02487	5	0.02487
8 生活環境・生活の便さ	1	331	0.00802	1	0.00802
	2	300	0.01221	2	0.01221
	3	162	0.00723	3	0.00723
	4	113	0.01219	4	0.01219
	5	159	0.02765	5	0.02765
9 生活環境・生活の便さ	1	391	0.01014	1	0.01014
	2	391	0.01014	2	0.01014
	3	391	0.01014	3	0.01014
	4	391	0.01014	4	0.01014
	5	391	0.01014	5	0.01014
10 生活環境・生活の便さ	1	46	0.01131	1	0.01131
	2	99	0.01466	2	0.01466
	3	99	0.01466	3	0.01466
	4	99	0.01466	4	0.01466
	5	99	0.01466	5	0.01466
11 生活環境・生活の便さ	1	474	0.00781	1	0.00781
	2	474	0.00781	2	0.00781
	3	474	0.00781	3	0.00781
	4	474	0.00781	4	0.00781
	5	474	0.00781	5	0.00781

(2) いわき市の将来の発展方向(図6・2参照)

将来どのような性格の都市づくりを目指すべきかを探ろうとしたものであるが、前回の結果は全体として各回答とも20%前後で近似し、市民の認識も多様であった。しかし、今回の結果は圧倒的に工業都市指向へ変化してきている。この原因として考えられるのは、昭和50年当時は、いわゆるオイルショックの後で高度成長のひずみが環境破壊や公害といった形で表面化し、工業都市への疑問が観光都市とか田園都市構想に出てきたものと思われる。5年を経過した今日、人口もさほど増加せず、産業活動も停滞ぎみでこれからのいわき市の発展方向を考えた場合、やはり今まで貯えられてきた資本を活用する意味でも工業都市指向となったものと思われる。ただ単なる工業都市ではなく、設問にもあるように「生産を中心とした自然環境と調和のとれた工業都市」を望んでいるようである。

(3) まちづくりの目標(図6・3参照)

この設問は、市民生活の側面から将来のまちづくりの方向を探ろうとしたものである。前回は「生活環境のよいまち」が圧倒的に多く、続いて「子供を育てやすいまち」「働きやすいまち」の順となっていた。今回の調査結果は、「生活環境のよいまち」は45.6%と前回に比べ全体で10.8%減少している。反面「働きやすいまち」が倍増しているのは注目される。その他の項目についてはあまり変化は見られない。また働きやすさを求める声は郊外地域に多く見られる(郊外地域が26.0%,市街地地域が19.4%)。

(3) いわき市の人口規模(図6・4参照)

都市の発展と人口との関係を尋ねたものである。前回の結果では「無理して人口を増す必要はない」という意見が65.7%とかなり高い数値を示している

反面、人口増加を望む声が20%弱であった。今回の調査によると、人口増加が(43.2%)人口増加に消極的(39.9%)を上回っており、このことは、活力のあるまちづくりを希望している表われの1つと見られる。しかし、依然として人口増加に消極的な人の比率が高い値を示しているのは、ただ単に人口を増加するだけではなく他の要因との調和を図りながら人口の増加を目指す必要がある。

(4) いわき市への永住意志(図6・5参照)

三全総による「定住圏構想」にも見られるように、今後地方都市発展のためには、地域への定住が大きな問題になるものと考えられる。そのような意味で市民の定住意志を伺ったものである。前回の結果では、永住意志をもつ市民が86.9%を示していたが、今回は81.9%と低下している。また移転希望が3.0%から3.8%へと増加している。特にいわき市での居住年数が短い程移転希望の比率が高い。(

問 市民生活を充実するため、どのようなまちづくりをすれば良いとお考えですか。次のうち重要な順に1つ選んで下さい。

1. 生活環境のよいまちへ(公園をなくし、公園、下水道、廃物等の対策など)
2. 子供を育てやすいまちへ(学校、幼稚園、保育園、遊び場の充実など)
3. たのしみの多いまちへ(ショッピング、娯楽、スポーツ施設の充実など)
4. 文化の盛りたいまちへ(図書館、博物館、教育研究施設の充実など)
5. 便利なまちへ(交通機関など都市施設の充実)
6. 働きやすいまちへ(働く場所が多い、働く環境がよいなど)
7. 社会福祉を重点とするまちへ(老人、病人、身障者などのための施設整備など)

図表(3/1)

環 境	育 児	文 化	利 便	労働	福祉
(564)	(127)	(63)	(105)		
(456)	(108)	(77)	(53)	(208)	(45)

(図6・3) まちづくりの目標

問 いわき市の現在の人口は約33万人ですが、これからのまちづくりを進めるために甲、乙2つの考え方のうち、あなたはどちらがより望ましいとお考えですか。該当する番号に1つ〇印をつけて下さい。

- 甲 : 企業等を誘致し雇用機会を増大させ、積極的に人口を増加させる
乙 : 無理して人口を増す必要はない

1. 甲 2. どちらかといえば甲 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば乙 5. 乙

1	2	3	4	5
(93)	(100)	(150)	(281)	(376)
(217)	(215)	(168)	(178)	(221)

(図6・4) いわき市の人口規模

問 あなたは、いつまでも「いわき市」に住みたいと思いますか。次の中から1つ選んで〇印をつけて下さい。

1. ぜひとも永住したい 2. できるだけ永住したい
3. どちらともいえない 4. できれば他に移りたい
5. ぜひ他に移りたい

ぜひ永住	できるだけ永住	不明
(524)	(345)	(100)
(461)	(358)	(142)

(図6・5) いわき市への永住意志

5年未満で15.9%、10年未満で7.7%）このように居住年数の短い人達に対しても魅力あるまちづくりが今後の課題であると言えよう。

7 小名浜港に対する住民意識

現在、小名浜港は重要港湾に指定され、福島県の海の玄関として、いわき市のみならず東北地方南部の産業に重要な位置を占めている。今後、港湾の重要性は増々増大するものと考えられ、「港」に対する住民の意識を明確にとらえておくことは、港湾の問題だけではなく、地域全体の問題であると思われる。

（図7・ノ）は、小名浜港に関するアンケートの結果を表わしている。まず、このノ年間に何回位小名浜港へ行ったことがあるかの設問に対し、全体の8割以上の人ノ回以上行っており、中でも全体の4分のノ以上の人ノ回以上を占めている。このことは、小名浜港が市民生活の中にとけこんでいることの表われと思われる。一度も行ったことがないと答えた人は、市街地地域より郊外地域に多い（市街地地域ノ5.6%、郊外地域32.9%）。次に港でどのような催物を希望するかの問に対しては、花火大会、港めぐり、見本市の順に続き、他の要因の比率は小さい。ついで、港を市民に親しみのあるものにするためにはどのようにすれば良いかという問については、意見の分れるところであるが、まず、きれいな港、レジャー面に力を入れる、港の広報の順に続いている。

従って、まず港を整備し、きれいな港にすることが急務であ

ろう。次に市民は、港をどのように見ているかという、まず産業の発展に寄与し、産業の発展と共に自動車交通の増加を挙げている。また港に関連した犯罪によって暗いイメージを与えていると答えた人が全体のノ割程いるが、これは市街地地域よりも郊外地域に多い（市街地地域9.5%、郊外地域ノ4.5%）。これらのことから港を市民に正しく理解してもらうために、幅広い広報活動が必要となろう。最後に小名浜港の将来はどのようにあるべきかという設問に対しては、港の整備・拡充が圧倒的に多く、次いで環境整備、沖合い拡張の順になっている。以上を総合すると、生活面では、開放されたきれいな港を希望し産業面では、港の環境整備を進めながら、港の整備・拡充に努め産業の振興を計る方向での計画を望んでいるようである。

8 まとめ

社会情勢や経済情勢が変化してくれば、それに伴って市民の価値観や行政へのニーズもまた変化してくるのは当然であり、刻々変化する市民の意識を適確にとらえていくことは、行政の基本的課題であろう。本報告の調査対象地域であるいわき市は、他に例をみないノ市町村の合併によって誕生した広域多核都市であり、合併後ノ4年を経た今日、郊外地域と市街地地域の都市整備等の較差は広がる一方で、過疎・過密が同居しているのが実情である。従って地域により行政へのニーズも異なり、画一的な行政ではなく地域の発達段階に見合った政策が必要となろう。

高度経済成長から安定成長へ移行した今日、市民の意識はかなりの変化を見せた。前回の調査結果によると、高度経済成長のひずみが公害とか環境破壊といった形で表面化し、新産業都市そのものの疑念が市民の間に広まり、一部では、新産業都市指定失敗論まで出てきた。しかし、5年を経た今日、地方都市

問 あなたは、このノ年間に何回位小名浜港へ行ったことがありますか。

なし (ノ92)	2回以下 (324)	5回以下 (206)	5回以上 (213)
-------------	---------------	---------------	---------------

問 港でどのような催物を希望しますか。

写真撮影会 (3ノ)	花火大会 (347)	港めぐり見学会 (266)	つり大会 (75)	見本市 (222)	その他 (25)
------------	------------	---------------	-----------	-----------	----------

問 港を市民に親しみのあるものとするためには、どのようにすれば良いと思いますか。

公園や緑化 (ノ40)	レジャー面 (204)	港の見学 (ノ27)	港の広報 (ノ90)	きれいな港 (324)	その他 (ノ4)
-------------	-------------	------------	------------	-------------	----------

問 港が市民生活に影響を与えていると思うものは何ですか。

産業の発展 (463)	自動車交通の増加 (232)	犯罪が安い (ノ06)	生鮮食品 (ノ7ノ)	その他 (28)
-------------	----------------	-------------	------------	----------

問 小名浜港は将来どのようにあるべきだと思いますか。

港の整備・拡充 (546)	環境整備 (304)	沖合い拡張 (82)	その他 (08)
(第1位)	(第2位)	(第3位)	(第4位)
(2ノ5)	(4ノ8)	沖合い拡張 (208)	現況維持 (ノノ4)
		(26)	(ノ8)

（図7・ノ） 小名浜港に関するアンケート結果

としての都市的魅力を増大させるためには、産業の活発化と人口の増加を望む声が、再び工業都市指向といった形で表面化してきたものと思われる。そのためには、DEMATEL法による調査でも明らかなように、工業開発と同時に流通施設，道路網の整備，港湾整備等の施策が急がれる。生活面では、郊外地域に対しては「利便性」を、市街地地域に対しては「快適性」を増すような方向での整備が望まれ、また、いわき市は広域性ゆえに、住民相互のコミュニケーション，相互理解といったソフトな面での交流機会を創出していくことが求められている。

最後に調査に際しては、アンケートの配布・回収に御協力いただいた、福島高専土木工学科の学生を始め、いわき市役所企画調整課の皆様、またDEMATEL法の解析には、東北大学工学研究科院生・鳥居聰君の協力を得た。ここに感謝の意を表します。

「参考資料」

- (1) いわき市総合計画（いわき市 昭和53年）
- (2) 神戸港と市民意識（神戸市港湾局 昭和57年）
- (3) 地域計画の手順と手法（吉川和広 昭和53年）